

道標ない旅

自分も人も大切に
～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



◆◆ 校長から長柄小の先生方に伝えた、内容をここで紹介します。 ◆◆

8月下旬に、道路の真ん中で、おどけてふざける3人の高学年児童が目撃されました。先日、相模川河口付近で中学生が川遊びの最中、命を落とす痛ましい事故がありました。友達とふざけていると妙に気が大きくなりがちです。せっかく夏休みを無事過ごせたのに、ふざけていて交通事故に遭って欲しくはありません。ご家庭でも思い当たることはないか、ご指導お願い申し上げます。

そして、8/28 9:30頃にも、地元の方からお電話が入りました。「長柄交差点から御霊神社に続く裏道の状況が、大変危険な状況だと思う。特に下校の様子が気になる。車を運転していると、南郷中の自転車車が2列ほど、長柄小学校児童が、ふざけあいながら、3列・4列に広がって歩いていて、いつ事故に巻き込んでしまうか分からない状況。同僚もみんなそうだねと行っているの、お電話しました。」とのことでした。学校教職員に紹介し、状況と、各クラスでの指導を共有し合いました。交通事故にも嚴重警戒が必要です。

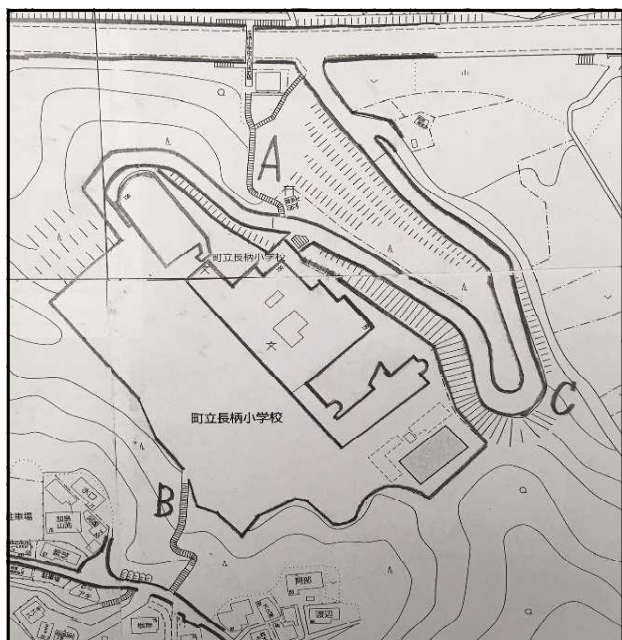
◆◆ 神奈川キッズぼうさいカードが、良い参考になります。 ◆◆

毎年4年生に配られるカードです。関東大震災(1923.9.1)の『防災の日』を意識した、大切な内容があるので、地域の皆さまも参考にしてください。

1. 道を歩いていたら・・・ブロック塀や電柱から離れて、走ってくる車に気をつけましょう。倒れた塀の下敷きにならないよう気をつけましょう。
2. さいがい用でん言ダイヤル「171」・・・でん言のろく音・さい生を練習しましょう。さいがい用でん言ばんのQRコードも載ってます。大変有用なシステムです。
3. 大雨・台風からいのちを守る・・・川ぞいやがけに近づかない。早めのひなん。
4. 家族で決めておこう・・・家と学校どちらにするかのポイント。バラバラなとき、どこでおちあうかの避難先！



◆◆ 葉山町防災安全課の指示により、長柄小学校「土砂災害時の避難確保計画」を策定しました。 ◆◆



左の校舎周辺地図において、次のように記載しました。

「本校で過ごす場合、基本的に敷地内で崖崩れが想定される場所は、プール脇、及び駐車場奥の学校園であるが、大雨の時、その場所に人が近づくことはない。つまり、体育館や校舎で過ごしている間は、安全は確保できる。」

「課題があるとしたら、階段A、階段B、そして車両通路Cである。Bは、上半分は尾根道なので、安全と考えられるが、下半分は谷道に当たり、急傾斜崩落の可能性はある。階段Aも未曾有の大雨の場合、谷道なので、急傾斜崩落の可能性はある。また、最も崩落の可能性が高いのが、Cの車両通路である。」

「本校にとどまれば危険は回避できるが、これらの通路をいずれか使う場合には、崩落が起こっていない通路を短時間で通過していく配慮は必要となる。」 (記述は以上)

今まで葉山町が経験したことの無い線状降水帯の降水が続いたとき、大変な土砂災害があらこちらで起こる可能性は否定できません。長柄小学校自体は土砂災害から守られる避難所であり続けたいと思いますが、校舎までの3つのアクセス(図中の階段A、階段B、車両通路C)は、土砂災害の影響を受ける可能性があります。早めの避難行動を行わないと大変なのだと言うことが、容易に想像できるはずで。

◆◆ 10月1日(木)に、171災害伝言ダイヤル利用体験訓練を実施いたします。 ◆◆

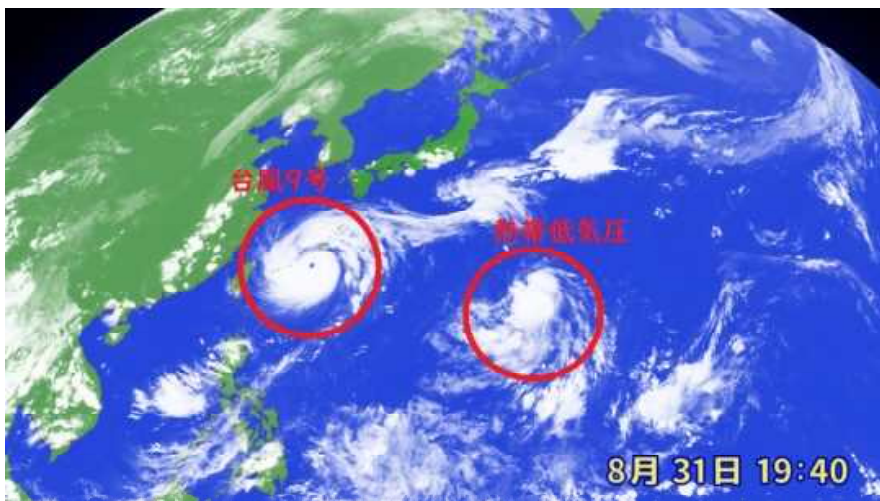
普段から利用して慣れておくと、大災害時に、離ればなれになった家族や親族の情報を入手できる方法です。発展形として避難所の情報発信に活用していく計画もあります。別途添えた紹介用プリントをコピーして、訓練に参加下さい。災害時の有用性を十分体験できるはずで。今回は長柄小のみの実施です。

◆◆ 9月に入りました。 ◆◆

ニュースで扱われる主人公が、ドラマのように入れ替わり、なかなか気が休まりません。「コロナウイルス感染症」が収束しないまま、最近のトレンドは「熱中症」だったのですが、9月に入った途端「台風・風水害」が主人公になりそうです。いずれにしてもタイプこそ異なれ、「警戒」の対象で、私たちの心にじわじわとダメージを残しているような気がします。

台風と言えば、昨年度はここ長柄小学校も停電による大きなダメージを被った記憶が鮮明に残っているのでは無いでしょうか。沖縄・九州地方にきている台風9号情報を総合すると、日本に襲来する台風の規模や威力が、スケールアップしているのを感じます。

今さらですが、台風とは、熱帯の海上で発生する低気圧「熱帯低気圧」のうち、北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上のものを「台風」と呼ぶと、中学生に教えてきました。そのレベル（台風）まで育つかどうかは問われていた時期もあったと思うのですが、最近の台風は何なのでしょう。最大風速が以前はあまり聞いたことが無い40m、50m/sを越える大物が、勢いそのままに日本本土に襲来するようになってきています。



上記は、ウェザーマップ提供の画像ですが、9号の右（東側）にある熱帯低気圧（2日時点で台風10号）に警戒が必要ではないかという指摘が続いています。9号は韓国方面に抜ける予測ですが、次は太平洋高気圧の位置がズレ、台風10号の予想進路については、日本本土にコースが向かう可能性があるようです。

ではどんな対応をとったら良いのでしょうか。届いたばかりの広報『葉山』9月号は、特集で台風対策を伝えてくれています。是非お読みになって下さい。森戸川だっていつ氾濫するか分かりません。想定外のことが起こる時代になったという認識を持って、事前の準備を進めておきたいところです。

おそらくこの学校便りが皆さんに届く頃には、台風10号は、九州方面を通り過ぎた後かもしれません。しかし、同様の伊勢湾台風並みの台風の発生は、また必ず起こり、避難所開設のきっかけになるかもしれません。「土砂災害時の避難確保計画」のところでも述べましたが、早め早めの避難が肝要です。長柄小学校には自動車はおけませんので、南郷中にするか、長柄小に避難するか等は、事前に決めておくことをおすすめします。

◆◆ 忍び寄るコロナウイルスの影・・・ ◆◆

ウイルス対策ソフト（cocoa）をインストールしている方が増えています。（私もその一人です）

Apple と Google 最強タグが開発したソフトで、個人情報や位置情報を扱うことのない、Bluetooth技術を利用して、陽性となった人が登録すれば、『1メートル以内で15分以上接触した場合』に通知が届く仕組みです。

「陽性登録者と接触した可能性があります」という通知が届くようですが、8月下旬現在、この通知が届いたのに、cocoa 本体を開くと「陽性者との接触は確認されませんでした」と表示される不具合があるそうです。厚労省によると、この不具合について問い合わせが数多く寄せられていて、原因は調査中でまだ分からないということです。

とはいえ、例えば外食中にたまたま隣り合わせた1m以内の場所に、陽性の方と、15分以上そばにいた事実は変わりません。（気がつきにくいけれど、確かに濃厚接触にあたりますよね。）

通知を受けた方が、ご家族に幼児や高齢者を抱えていたり、第三者と日常的に接触機会がある様な職業の方なら、気になるはずですよ。

症状がない場合でも、3万円近くかかりますが、自主的にPCR検査を受ける方もいます。以下その人のインターネットの書き込みを紹介します。

『翌日の午前には病院から結果報告の電話があった。結果は陰性であり、現時点で新型コロナウイルスは検出されなかった。一安心だがPCR検査は陽性であることを発見するためのものであって陰性であることを保証するものではない。接触通知を受けた日から起算して14日間は自主隔離を続けていくことになる。』

・・・この人のつぶやきはかなり正しい行動です。

葉山町でも対応マニュアルができていますが、保健所が認定した、陽性の方との濃厚接触者になると、PCR検査を受けるよう指示があります。そこで「陰性であっても、2週間は自宅等での待機」が要請されます。家庭内感染が増えてきている今、学校の児童や教職員も、いつ濃厚接触者になるか分からない状況になってきています。全体（他の人）のため、念のため待機している人を、周囲（その人を包む世間）が、優しく見守るか、「自粛警察」の延長で、「犯人探し」に躍起になるか、大きな違いです。明日は我が身です。お互いに、温かく見守りたいものです。